

10 森・番田遺跡(第2次)

調査地 加東郡東条町森地内
調査期間 2000年 5月 8日から
2000年 6月 3日まで
原因 公共下水道管埋設事業
原因者 加東郡東条町 担当課 - 下水道課
調査協力 (株)向井建設 (株)平尾建設
調査面積 約440m²



位置図

はじめに

東条町森地区は、圃場整備事業に先立つ遺跡確認調査によって、段丘上に森・番田遺跡、森・芝山遺跡などが存在することが明らかになっている。今回の下水道管埋設事業は森・番田遺跡を縦横断して敷設されることから、工事に先立って遺跡の遺存状況等を把握する事を目的として実施することで事業担当課と協議を行った。

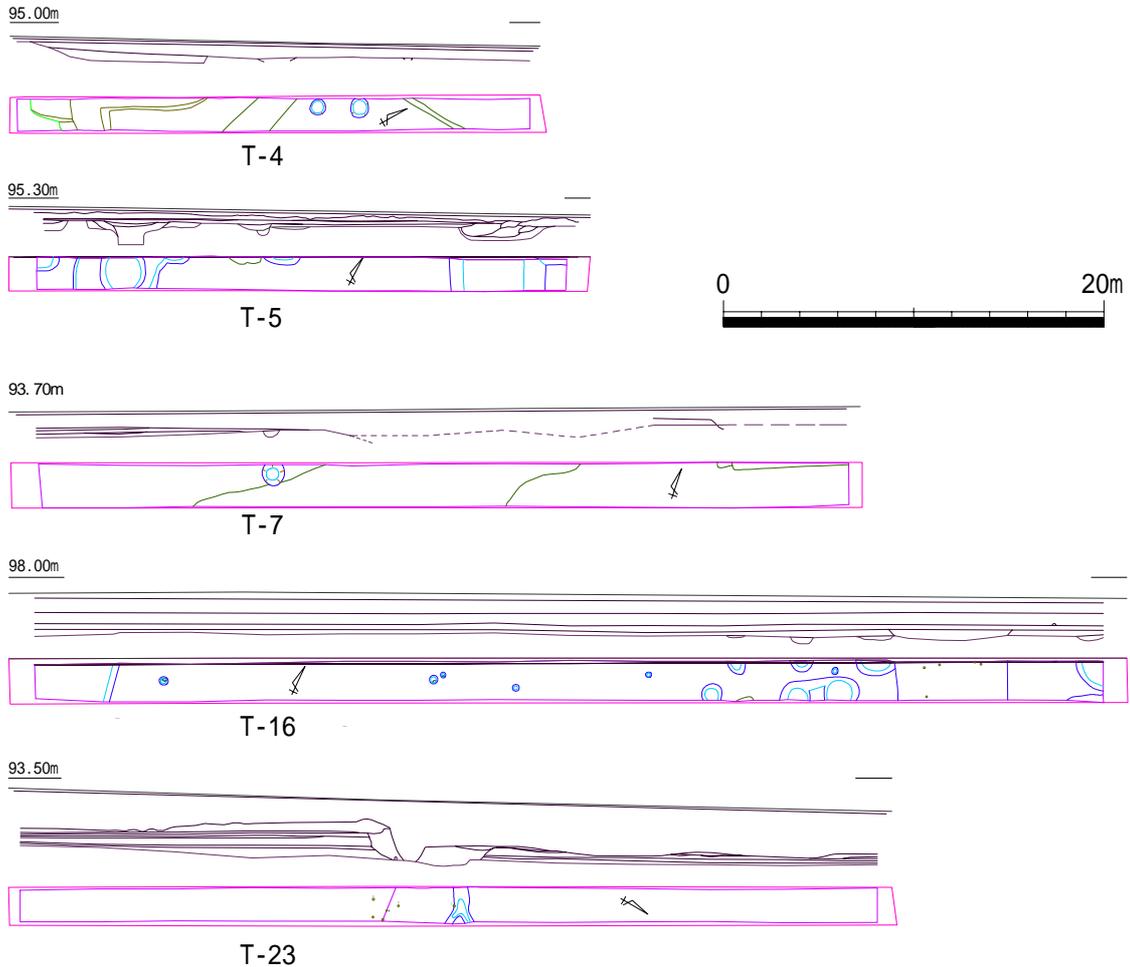
調査の概要



トレンチ設定図

検出された遺構を略記する事にする。

T - 4 では径 40 cm あまりの円形を呈した土坑が検出されている。深さは 8 cm 程度が遺存しているが、遺物は出土していない。T - 5 では幅 2.5 m、深さ 40 cm あまりの溝と思われる遺構のほか不整形な土坑 2 基が中世期の所産であるほか、径 1.1 m、深さ 70 cm 以上が遺存する近世期の井戸が検出されている。T - 6・ - 7・ - 8 ではこの遺跡の初源である弥生時代後期後半のピットが検出されている。T - 9 では N - 40° - W 方向に延びる中世期の落ち込みが検出されている。T - 16 では中世期の土坑・ピットなどが検出されている。



トレンチ平面・断面図

出土遺物としては調査地全域で中世期の山茶碗・皿・土鍋・皿などが出土するほか、T - 6・ - 7 付近で弥生時代の甕・高坏、古墳時代・奈良時代の坏などが出土している。

まとめ

調査によって、森・番田遺跡の初源は弥生時代後期後半にあることが再度確認された。ただ、その範囲は住吉神社周辺の台地突端付近に限定されていることも明らかになった。また、この遺跡が拡大するのは室町時代になってからのことで、その後、現在の集落へと引き継がれるものと理解される。



T-1



T-3



T-5



T-7



T-8



T-10

